



撮影：森本康則 小平尾市民農園にて

謹賀新年



NO. 97

発行責任者
高柳 忠夫
(奈良県議会議員)事務局 東新町2-10
市民オフィス内
TEL. 71-7700
FAX. 71-7800
<http://www.kcn.ne.jp/~forum/>
 E-mail: forum@kcn.ne.jp

虫たち、鳥たちも含めての私たちの畑。小さな畑で、大きな自然を感じながら、精を出し、野菜を育てています。この大地の恵（自然の味）が、次の世代、また、次の世代の人たちへと、繋がってほしいと日々願っています。

田中ご夫妻(東生駒在住)

1月30日(日)

とき 1時30分
場所セセ化 1401-2

通勤・通学・買い物など日常生活の自由な移動を保障するのが公共交通。空白地域をなくすにはどうすればいいのか。生活の基本を改めて考える集いです。

公共交通を考える集い

1月23日(日)

とき 2時30分
場所セセ化 1401

在宅看護・介護を大阪市で実践する中村正廣医師を迎えての講演会。超高齢化時代には施設だけでは力不足できません。地域ケアへの転換をどうするか、ぜひ参加を。

これから地域医療と老いの方

道半ば、決意新たに

新年を迎え、あらためて「信じることを愚直に実行し続ける」とがいかに大切かということを再確認し、決意を新たにしているところです。しかし、「生駒フォーラム」、20年が経過したとは言え、なお「道半ば」であります。スタッフ一同、引き続き精一杯がんばります。

「あなた」そして「わたし」であることを一貫して主張し続けて参りました。決して平坦な道のりばかりではありませんでしたが、今では、多くの方々にその活動を理解いただき賛同を得ています。

ありませんでしたが、今では、多くの方々にその活動を理解いただき賛同を得ています。

生駒カメラ (アイ)

2月2日(水) 2時から

(毎月第1水曜日)

コンパクトカメラはありますか？
使い捨てカメラ・カメラ付き携帯電話でも
かまいません。

銀塗(フィルム)一眼レフでも、デジタルコンパクト一眼レフでも、埃の冠ったあじいちゃんの一眼レフとか。何でも結構です。何でもいいのです。

写真の基礎を知り、撮る楽しさを体験してみませんか。レンズの話、絞りつて何？シャッター速度や露出といった慣れない用語。毎月それを学び合い、共通のテーマで撮るという体験をし、お互いに写真について語り合いましょう。

写真の一枚一枚がドキュメント化となるかもしれません。私たちの生駒を自分史の中で切り取っていきましょう。社会の今の証言として写真は語ります。

教室は月1回、第1水曜日、午後2時

定員は10人から15人。会費は月1回

の教室と撮影会で4000円

教室のみでは2000円

2月からスタートです。会員募集中。
講師は森本康則先生。県政など「いきいき歴史街道」に宣傳運載もされていました。

森本康則先生プロフィール
講師は森本康則先生。県政など「いきいき歴史街道」に宣傳運載もされていました。

2051年 奈良県橿原市に生まれる
1972年 日本写真専門学校卒
写真事務所・スタジオ設立



薬師寺／森本康則

あなたの家から
バス停や駅までの
距離は?

「どこで聞けばいいのか？」
にお答えします 無料相談

無料相談

生駒フォーラム よろず相談

弁護士による法律相談をはじめ、専門スタッフによる行政相談、税金、介護、教育、不動産、マンション、子育て、職場での問題などの相談に対応します。生駒のまちに生活するハンディキャップを持つ人、お年寄り、女性、子どもたちが抱えている悩みごとに、私たちの助け合いネットワークが対応します。あらかじめ簡単な内容のご連絡と予約をおねがいします。

1月16日(日曜日)1:30~4:30

1月23日(日)2:30~
生駒セレモニーハウス

これからの地域医療と老い方

生駒市では、こじ数年、新病院建設をめぐつて多くの議論がなされ、ようやく運営主体が德州会に決まりました。新病院スタートで生駒市の医療問題はすべて解決したとおもわれますが果たしてどうでしょうか。

生駒市では、こじ数年、新病院建設をめぐって多くの議論がなされ、ようやく運営主体が德州会に決まりました。新病院スタートで生駒市の医療問題はすべて解決したと言う方もおられますがあくまで「うか」とか。

現在、介護施設、とりわけ特養にあつては入所数年待ちは常識となつており、今後その傾向が顕著になることは明らかであります。加えて認知症のケアなども考慮すれば、医療・介護施設の充実だけでは対応できません。

現在、介護施設、とりわけ特養にあつては人所数年待ちは常識となつており、今後その傾向が顕著になることは明らかです。加えて認知症のケアなども考慮すれば、医療・介護施設の充実だけでは対応できません。

欧米では、すでに特養や精神病院を廢止したところまで出ており、「施設の介護から地域でのケア」への転換を図つています。

生はこういった問題に早くから取り組み、「デスマーケ」をはじめとする現地での学習や研究を通して、多くの提案や実践をされています。10年前には隣地に有料老人ホームを建設し、「24時間在宅看護・介護」を実現、10年6月には近くの商店街の空き店舗を活用し、「地域の高齢者を見守る」をコンセプトに交流サロンを運営されています。さらには医師会として病院と地元医師との橋渡しをする「地域連携室」を設立。校区単位で、医師・地域包括支援センター・ケアマネの連携会議を開催し、在宅看護・介護への展開を進めようとしています。今回は在宅看護・介護の実践者である

公共交通を考える集い

平成23年1月23日(日)
駒市セイセイビル4F
時30分から
村正廣(中村クリニツシ
会理事)

**あなたの家から
バス停や駅までの
距離は？？**

上の図
生駒市では一路線だけ運行されています。一乗車100円のコミュニティーバス「たけまる号」の路線

(→地図上の路線)

東大阪市

金剛生駒紀泉国定公園

平群町

規格 1:20,000

小さな円はバス停から半径300m、大きな円は近鉄の駅から半径500mを示しています。そのエリアに入っている地域が住宅地や中心部も含め広い地域に。しかも多くは坂道です。コミュニティバスを増設するのも一つの対応策です。多くの自治会から運行の請が市に出されています。高齢社会を迎える「まちづくり」重要な施策になってきたあなたの家からバス停や駅までの距離はどうですか？？

住民の足はみんなで支える

通勤や通学、買物は私たちの日常生活における基本的な行動です。地域の中でそれを支える身近な公共交通を「生活交通」と呼びます。ところが私たちの移動の多くは自家用自動車に依存しているのではないでしょうか。そんな中で公共交通は厳しい状況にあります。一方で、こうした移動が困難な地域、公共交通の空白地域もあります。自由な移動を誰にでも保障するシステムがいま求められています。生活の基本、公共交通を改めて考えてみませんか。

このまちをつくるのは、私・あなた

生駒里山を守る会

『五反原の里』

現在会員は20名程度です。自然が好きな方・野菜作りを希望される方の新規の参加を歓迎します。義務のようなものではなく、活動に参加できる日を決めてあくまで自主的に活動しています。

連絡先 代表 阿井隆夫
TEL76-8259



『五反原の里』といつてもあまりご存知ないかもしれません、近鉄生駒線「南生駒駅」または「萩の台駅」から徒歩15分くらいの所（生駒山の麓）、生駒市小平尾町に五反原の里はあります。

春は新緑、秋の紅葉など四季折々の自然を満喫できるこのすばらしい場所で、里の景観・自然環境の保全活動とともに、野菜を作ったり、付近をのんびり散策したり、とても有意義な時間を過ごしています。

今では東大阪市内の小学校や地元の幼稚園の園児が教育の一環として田植え、ハイキング、稲刈り等毎年定期的に来て自然とのふれあいを体験しています。

また、地域の団体・家族にも多く利用され、バーベキュー、ピザの試食会、餅つきなど毎年行われます。

もっとこの里を利用していただきたいと思っています。もともとこのあたりは昔からの棚田が多くありました。しかし近年、農家の高齢化等いろいろな事情で人手が足らず、放置され荒れたままの棚田、里山が多くなりました。

今から10年前（2000年）、野菜作りの仲間が集まり、地主の方々の協力を得て、「生駒里山を守る会」を発足させ、棚田と竹林の整備を開始、「五反原の里」を作ることができました。今後誰もが楽しめる「里山」ができるよう環境整備に努めています。

道草農園を3年。人の笑顔で笑顔になる、心が和む空間の五反原

石尾 修一

10年余りのサラリーマン生活に終止符を打ち、五反原の里をちょっと登った段々畠を借り、道草農園と称して、畠仕事に従事して3年。五反原の里のメンバーとしても3年たちました。個性の強いおっちゃんやおばちゃんに囲まれ楽しくやっています。

（阿井さんも書いておられるとおり）五反原には、決まりごとらしきものはありません。唯一あるとすれば、月500円の会費ぐらいです。基本的に、みんなが気持ちよくいられるよう、楽しくいられるように、1人ひとりが汗をながしています。

春や夏、みんなで里のまわりの草刈りをし、汗をかいた後のビールは格別です。普段、なにげなく感じる風も、こんな日は「贅沢だな～」と、心から思います。

近くの幼稚園の子供たちも季節の折々訪れます。坂を登ったり降りたり、小さい子供たちのパワーは自然にふれるとさらにはじけるみたいです。一緒に遊んでいる私たちも元気になります。

（自分にとって無理のない程度に）ちょっとがんばって人の笑顔のために汗を流し、人の笑顔で笑顔になる。五反原の里は、そんな、心が和む空間です。（たまには、本音でケンカになることもあります、そこも、また、楽しいところです。）

私は気になっていて、やってみたいことが1つあります。五反原のはじまりの象徴でもある「竹炭」を復活させること。中心になってやられていた方が亡くなつて以来、うまく稼動していません。

ツリーハウスをもう一度 子ども広場再生プロジェクトに参加を

五反原の里の子ども広場をリニューアルする企画です。ツリーハウスをもう一度実現するための参加者（仲間）を募集しています。資格は必要ありません、どなたでも結構です。

ルールは有ります。小、中学生が実行委員になり、ツリーハウス完成まで子どもたちで造ることです。

五反原の仲間の中には1級建築士、DIYアドバイザーの方もおられます。親子で参加、夫婦で参加、仲間と参加、恋人と参加、良いとこ見せたい人の参加などを待っています！

終わったあとの食事は最高ですよ！ 子ども広場再生プロジェクトへのご参加をお待ちしています。連絡先は市民オフィスです。

3木会の集い インドアも元気に毎月第3木曜日

五反原の里での活動（アウトドア）にプラスして、夕方からでもゆっくり話し合える場（インドア）が欲しいね、と言ったのがきっかけで「3木会」は2009年2月に始まり、早くも20回を数えています。

毎月第三木曜日（3木会）の5時過ぎになると市民オフィスのテーブル上には飲食物が並べられ、自前の居酒屋が出現します。気軽に集まることが出来るようワンコイン（¥500）の会費で調達された料理にプラスして、各自の好みの品や旅先でのお土産などが食卓を飾ります。飲み物は各自が好みを持参してマイペースで楽しみます。

「3木会」のメンバーは、学識、経験共に実に多彩。政治、経済、文化と多岐にわたる今日の話題は毎回白熱し、歴史的経過も交えて大いに盛り上がります。特定のテーマに関し討論を行う際、異なった立場や角度からの分析や論究が深まるよう、専門的ゲストを招いて討論できるようにもしたいと考えています。

継続は力です。回を重ねる中で美食の味わいと共に討論内容も心地よく消化されていくことでしょう。（T、K記）

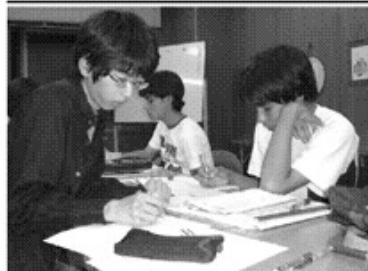
雑然とした森を、里山を、心が落ち着く里山になるように、木を切り、竹を切り、汗を流し、竹を運び出し大きな釜につめていく。釜に火を入れると夜通しの作業。大仕事です。それも、ただただ、汗をかく大仕事。でも残るのは、「美しい里山」「苦労して出来上がった竹炭」。きっと、汗を流した分だけの充実感と爽やかさが得られるでしょう。できた竹炭をささやかに売って、ささやかなもうけ、みんなで乾杯！ 是非、やってみたいことです。

イノシシなどの住みかの奥山と人の住みかの里との間に位置する里山。全国で、町へのイノシシの出没をよく耳にします。この生駒でも、里山地帯がなくなり、イノシシが里にまで下りてくることが多くなりました。私もときどき考えます。もし、出会ったときどうするか。きたものは、かわいそうだけど殺すしかありません。私は、私の家族を守るために。

しかし、殺す前にできることがあります。里山づくりを通して、・・・

昔は、生活に必要な薪や肥料を里山から集めることで、同時に里山が整備されていましたが、生活様式が昔と変わってしまった今、放置されているところが大部分です。

という意義も考えつつ、（自分にとって無理のない程度に）ちょっとがんばって人の笑顔のために汗を流し、人の笑顔で笑顔になる。そんな、素敵な関係を、具体的に、汗を流して、感じてみませんか。一番の若手が、39歳の私です。汗を流せる仲間が多くできると嬉しいです。



本当の学びがあります



まちづくりに公共交通の視点を



好評の生駒フォーラム朝市



違法な労働実態を告発する中国研修生

自主夜間中学「西和」スタッフを募集

現在、日本の「識字率」はほぼ100%と言われています。しかし、そんな日本にも生きていくために「学び」を必要としている人がたくさんいらっしゃいます。

学齢期に事情があって学校へ行くことができなかった大人や、不登校のまま卒業証書をもらってしまった人たち、昼間の小中学校で基礎学習を必要としている子どもたちなど、私たちはその人たちを「生徒さん」と呼んでいます。

私たち西和自主夜間中学は、王寺町中央公民館(JR王寺駅北口5分)で、毎週火曜日・木曜日の午後6時~9時まで、マンツーマンで学習をしています。境遇は様々ですが、目的を持って自分らしく生きる生徒さんたちに寄り添って下さるスタッフを募集しています。

西和自主夜間中学では、時間と能力を提供して下さるスタッフ(無償ボランティア)を必要としています。

趣旨にご賛同くださる方は、山本直子(事務局長)まで是非ご連絡下さい。

連絡先 電話090-3284-3576

石綿(アスベスト)で心配や不安の方は

奈良県内には2ヶ所の石綿リスクの高い地域があります。北葛城郡王寺町にあるニチアス王寺工場周辺地域と生駒郡斑鳩町にある竜田工業(ニチアスの子会社)周辺地域がそうです。両社ともかつてアスベスト製品を製造・加工し、工場内では労働者に石綿関連ガン(中皮腫・肺ガンなど)が多発していることがわかつてきました。周辺住民への被害は「ない」というのが企業の公式見解ですが、胸膜ブラーク(石綿を吸った人で特有の症状)の所見のある住民は多数存在しています。

私たちは「中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会 奈良支部」といい、アスベストのない社会を目指して活動しています。

石綿に関する心配ごとや不安をお持ちの方は、ご連絡ください。

連絡先 家族の会奈良支部・0745-75-3901/市民オフィス 71-7700

奈良ダルクは2005年設立されました

2005年9月、初めて奈良に設立されたダルクは全国40ヶ所目。

ダルクは薬物・アルコール・ギャンブルに依存し、止める事のできない人に身体的、精神的、社会的援助をすることによって依存症からの回復の手助けを行っています。自尊感情を育て、自己肯定をしながら豊かな社会生活を送れるよう支援する治療共同体です。

奈良ダルクは医療、司法、行政、教育関係等と連携しながら幅広い分野で活動し、「未だ苦しんでいる依存者に回復のメッセージ」を発信しています。その中には、奈良少年刑務所でのプログラムや、県からの委託事業なども行っています。連絡先 TEL/FAX 0745-22-0207 E-mail:info@kura-ag.org

もうすぐ3周年 生駒フォーラム「中国語教室」

『身近な国際交流』を目指して開講した、南京出身の張飛飛さんが講師を勤める中国語教室が、まもなく3周年を迎えます。お子様連れの主婦の方や、就活に活用したい学生さん、仕事でどうしても必要というビジネスマン等、いろいろな受講者が共に勉強しています。

昨今、何かと話題になる中国ですが、意思の疎通なくして交流は成り立ちません。

ご存知のとおり日本の漢字は中国からの輸入品であり、その一方、現代中國語の多くの言葉は、明治期に日本が西洋の言葉を漢字に翻訳した、いわゆる和製漢字を逆輸入したもののです。

こんなお隣の国の「一ことばー」に興味をもたらしたら、是非ご連絡下さい。

連絡先 0743-71-7700 市民オフィス

講師 張飛飛(ちょうふえいふえい)

来日15年目。中国南京市出身。

元中国江蘇省万集中学校教師。

まほろばの家 会員支援者募集

「自立援助ホーム」をご存知ですか?

虐待、親との死別などさまざまな家庭の事情で施設に入り退所した子どもたちを受け入れる家が「自立援助ホーム」まほろばの家です。若くして社会に行く青少年たちには、社会応援が欠かせません。

応援してくださる方々の行動が、彼らの心に響き、新たな希望を持つかもしれません。まほろばの家は地域(県)で子どもたちを応援できる場所にしたいのです。

①青少年が抱える様々な心の傷を癒し、人間関係を作り直すきっかけとなる場所

②青少年が実社会へ羽ばたくとき、実社会へ出てからも困った時の心の拠点となる場所

会員、一緒に協力してくれる仲間を募集しています。

まほろばの家に关心を抱いて下さり、何かお手伝いしたいと思って下さる方(バザー、講演、各種イベントなど)大歓迎です。

また、まほろばの家ではこれから児童虐待に対しても精力的に活動していく考えです。

奈良県では児童虐待相談対応件数が、平成21年度は961件で前年度より235件増加になりました。生駒市では21年度303件ですが22年度は8月31日現在301件で、年度末までには21年度を軽くこします。虐待については近隣、知人からの相談が一番多く、次が学校、家族、親戚からです。みなさまのご協力お待ちしています。

お問い合わせ 電話・FAX 0743-78-7598

携帯 090-5891-3304 (平野 良一)



市民自治を問う



生駒フォーラム15周年会場で



大阪地裁にて



地域医療の確立を訴える